

令和2年度 福島小学校学校評価結果の報告

1 これまでの経過

(1)今年度は新型コロナ拡大感染防止のため、5月の最終週まで臨時休校となる異例な年度初めであった。そのため、学校長の経営方針をもとにした重点目標の達成、努力事項に対する具体的取り組み事項の検討は例年よりも1ヶ月遅くなった。(7月：校内研修)

*昨年度の学校評価の結果を考慮し、7つの重点事項及び努力事項達成のための具体的取り組み事項について各グループで検討を行った。

*具体的取組事項別紙参照(前期分)

(2)中間の自己評価と具体的取り組み事項の見直し(11月：校内研修)

*11月上旬に自分たちの取り組みについて各自、中間自己評価を行い、集計結果をもとに具体的取り組み事項の見直しを実施した。(学年別)

<内容>

①集計結果の感想や意見交換

②継続や見直しについての事項の確認

(3)11月中旬 アンケート内容の検討(企画会及び学年別)

*年度末自己評価をおこなう際の参考となる児童・保護者アンケートについて内容の検討を行った。

(4)12月上旬 保護者・児童アンケート実施

(5)1月中旬 アンケート集計・分析(学年別)

(6)2月上旬 年度末自己評価の実施

(7)2月中旬 来年度の課題と改善策の検討(グループ別)

(8)3月11日 学校関係者評価実施(評議員会)

(9)3月12日 市教委へ報告

(10)3月16日 学校評価について報告(職員会)

(11)3月24日 保護者への文書による報告及びHPへのアップ

2 学校経営基本方針

(1)学校教育目標

「就将」の精神を基盤として、

確かな学力を身に付け、心豊かでたくましく生きる子どもの育成

(2)重点目標

①確かな学力を身に付けた子どもを育成する

②心豊かな子どもを育成する

③心身ともにすこやかな子どもを育成する

④一人一人に応じた指導を行う

⑤安心・安全な学校づくりを行う

⑥保護者・地域等と協力・連携した学校づくりを行う

⑦効率的で働きやすい職場づくりを行う

3 児童・保護者アンケート

全学年の児童、保護者にアンケートを実施した。アンケートについては昨年度、一昨年度との経年比較も出来るようにした。

(1)児童アンケート集計結果 *別紙参照

それぞれの質問項目について、よく出来ている・大体出来ている・あまり出来ていない・出来ていないの4段階でアンケートを実施した。また、(よく出来ている・大体出来ている)を肯定的評価(プラス)とし、(あまり出来ていない・出来ていない)を否定的評価(マイナス)とした。

(2) 保護者アンケート集計結果 * 別紙参照

それぞれの質問項目について、そう思う・大体そう思う・あまりそう思わない・そう思わないの4段階でアンケートを実施した。また、(そう思う・大体そう思う)を肯定的評価(プラス)とし、(あまりそう思わない・そう思わない)を否定的評価(マイナス)とした。

(3) アンケート結果(児童・保護者)からの考察・分析 * 別紙参照

4 自己評価

(1) 自己評価結果

教員には、学校の重点目標に照らし合わせ、実践課題を設定しいくつかの具体的取り組み事項を検討しその取り組みについて自己評価を行った。

* 年度末自己評価結果別紙参照

(2) 教員による自己評価結果からの考察と来年度に向けての改善策について * 別紙参照

5 評議員会での報告と助言・意見等

令和3年3月11日に、4名の評議員の出席のもと、1年間の学校の様子や、自己評価結果などについて説明し、来年度へ向けての次のようなアドバイスをいただいた。

<主な意見>

- ・休み時間に多くの子どもが運動場で遊んでいる。子どもたちの元気な声などに地域の住民も元気をもらっている。子どもたちを地域で育てることが大切である。
- ・コロナ禍においてこのような緻密な計画と実施は大変だったと思う。先生方のご苦勞が忍ばれる。先生方の過勞が心配である。
- ・コロナ禍であり、様々な対策が必要だったと思う。学校の対応のおかげで、修学旅行をはじめとする様々な教育活動を行っていただき感謝している。
- ・来年度から、一人一台タブレット端末の貸し出しが始まるようだが、家に帰ってゲームなどをインストールされたりしないか心配である。
- ・防災意識の高揚のために、参観日に親子で通学路を点検するなどの取組をしてはどうか。
- ・学校南側市道のスクールゾーンに通行禁止の時間帯に多くの車が侵入している件について、福島交番のおまわりさんが朝早くから指導してくれている。地域の安全を見守ってくれてありがたい。
- ・保護者の方々もPTAの交通立哨により児童の安全を見守ってくれており大変ありがたい。

6 まとめ

今年度は新型コロナウイルスの影響を大きく受け、学校の在り方そのものが問われた年であった。授業の仕方や学校行事の工夫など、例年当たり前のように行ってきた教育活動全般について変更を余儀なくされ、考えていなかったことを考えざるをえなかったことも多かった。我々教員自身も日々模索しながら教育活動を行ってきたというのが現実である。

そのような中、今年度の学校評価全体を通して、考察したことを次年度へ生かせるよう、課題を明確にしたい。

1 授業や学校行事の在り方について

- ・新型コロナウイルスの影響は今後もまだ続くと予想される。GIGA スクール構想を含め、今後の授業の在り方を研究する。
- ・これまで慣例とされてきた学校行事等について改めて見直したり、工夫したりする。

2 PDCA サイクルの機能はできているか

- ・今後の教育の変化に対応するカリキュラムマネジメントを行う。
- ・新学習指導要領に合致した授業や評価の在り方について検討を行う。
- ・たくさんの重点課題の中から学校や児童の実態を考慮し、項目を精選し、実行していく。

3 チーム学校としての在り方について

- ・若手教員が増えてきた。経験の長い教員からの知識や技能の伝達をしたり、逆に若い教員からベテラン教員への新しい感覚の伝達など、様々な年齢で構成されるチーム学校の在り方を見直し、支え合う学校をつくっていく。
- ・教職員の心身の健康に留意し、長時間労働勤務等の是正を目指す。